

富山大学 学報

第214号

目 次

関係法令..... 2	調査総括) 交付内定者..... 8
学内規則..... 2	学術刊行物..... 8
富山大学職員健康安全管理規則の一部改正..... 2	昭和57年度富山大学入学者選抜に関する要項..... 8
富山大学理学部国際規制物資計量管理規則の制定 3	人 事 異 動.....12
富山大学自然観察実習センター規則の制定..... 5	学 内 諸 報.....12
富山大学認定講習委員会規則の廃止..... 6	海外渡航者.....12
諸 会 議..... 7	富山大学公開講座.....13
学 事..... 8	学内レクリエーション.....15
昭和56年度科学研究費補助金 (海外学術調査一	職 員 消 息.....15
	主 要 行 事.....16

 関 係 法 令

(官報掲載月日)

省 令

- 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令（大蔵41） 7・23
- 昭和42年度以後における国家公務員共済組合等からの年金の額の改定に関する法律施行令第18条第3項に規定する金額の特例を定める省令（同42） 〃
- 児童扶養手当法施行規則及び特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行規則の一部を改正する省令（厚生56） 7・30

規 則

- 人事院規則（災害を受けた職員の福祉施設）の一部を改正する規則（人事院16-3） 7・1
- 同（補償及び福祉施設の実施）の一部を改正する規則（同16-4） 〃
- 同（俸給の調整額）の一部を改正する規則（同9-6） 7・16
- 同（災害を受けた職員の福祉施設）の一部を改正する規則（同16-3） 〃
- 同（俸給の特別調整額）の一部を改正する規則（同9-17） 7・17

 学 内 規 則

富山大学職員健康安全管理規則の一部改正

富山大学職員健康安全管理規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和56年7月14日

富山大学長 柳田 友道

富山大学職員健康安全管理規則の一部を改正する規則

富山大学職員健康安全管理規則（昭和51年10月1日制定）の一部を次のように改正する。

第1条（見出しを除く。）を次のように改める。

- 第1条** 富山大学（経営短期大学部を含む。）の職員の健康及び安全保持に関しては、人事院規則10-4（職員の保健及び安全保持）（以下「規則10-4」という。）、人事院規則10-5（職員の放射線障害の防止）（以下「規則10-5」という。）、人事院規則10-7（女子職員及び年少職員の健康、安全及び福祉）（以下「規則10-7」という。）及び文部省健康安全管理規程（昭和48年文部省訓令第23号）又はその他の法令に定めるもののほか、この規

則の定めるところによる。

第2条中「附属図書館」を「附属図書館，トリチウム科学センター」に改める

第5条第2項中「他の省庁等と共同して行う場合は，当該部局長は」を「他の省庁等と共同して行う場合には，当該部局長は，」に改める。

第11条第3項中「そのつど」を「その都度」に改め，同条に次の1項を加える。

4 部局長は，規則10-5第16条第1項各号に掲げる事項に該当するときは，速やかに学長に報告しなければならない。

第12条中「人事院規則10-7（女子職員及び年少職員の健康，安全及び福祉）」を「規則10-7」に改める。

第13条（見出しを除く。）を次のように改める。

第13条 規則10-5第22条第1項に規定する放射線障害の防止に関する規則は，別に定める。

別表第1を次のように改める。

（次のようは，別紙のとおり）

附 則

この規則は，昭和56年7月14日から施行する。

別紙第1

健康管理者及び安全管理者等

部 局	健 康 管 理 者	健康管理担当者	安 全 管 理 者	安全管理担当者	管 理 範 囲
本 部 トリチウム科学センター	人 事 課 長	任 用 係 長	人 事 課 長	任 用 係 長	本部及びトリチウム科学センター
			主 計 課 長	管 財 係 長	
			経 理 課 長	用 度 係 長	
			施 設 課 長	設 備 係 長	
			厚 生 課 長	保 健 係 長	
人 文 学 部 理 学 部	人文学部・理学部 事 務 長	人文学部・理学部 庶 務 係 長	人文学部・理学部 事 務 長	人文学部・理学部 用 度 係 長	人文学部及び理学部
教 育 学 部	事 務 長	庶 務 係 長	事 務 長	会 計 係 長	教育学部（附属の学校を除く。）
		附 属 学 校 係 長		附 属 学 校 係 長	附 属 の 学 校
経 済 学 部	事 務 長	庶 務 係 長	事 務 長	会 計 係 長	経 済 学 部
工 学 部	事 務 長	庶 務 係 長	事 務 長	管 理 係 長	工 学 部
教 養 部	事 務 長	庶 務 係 長	事 務 長	会 計 係 長	教 養 部
附 属 図 書 館	事 務 長	総 務 係 長	事 務 長	総 務 係 長	附 属 図 書 館
経 営 短 期 大 学 部	事 務 長	総 務 係 長	事 務 長	総 務 係 長	経 営 短 期 大 学 部

備考 本部の安全管理者は，本学の事務組織規則に定める分掌事項により，分担して管理するものとする。

▶富山大学職員健康安全管理規則の改正理由

- 1 トリチウム科学センターの設置に伴う所要の改正を行う。
- 2 放射線取扱施設における事故報告義務を規定する。
- 3 事務分掌の変更等に伴い，別表第1（健康管理者及び安全管理者等）を改める。
- 4 字句を改める。

富山大学理学部国際規制物資計量管理規則の制定

富山大学理学部国際規制物資計量管理規則を次のとおり制定する。

富山大学理学部国際規制物資計量管理規則

(目 的)

第1条 この規則は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和32年法律第166号。以下「法律」という。）第61条の8第1項の規定に基づき、富山大学理学部（以下「本学部」という。）における法律第61条の3第1項に定める国際規制物資の使用の承認を得たすべての核燃料物質の計量及び管理（以下「計量管理」という。）に関し必要な事項を定め、もって適正な計量管理制度の確立を図ることを目的とする。

(定 義)

第2条 この規則において「国際規制物資」とは、法律第2条第8項に規定する核燃料物質をいう。

(計量管理責任者)

第3条 本学部における核燃料物質の計量管理のために計量管理責任者を置くものとする。

2 本学部における計量管理責任者は、学部長をもって充てる。

3 本学部における計量管理については、計量管理責任者の責任の下に行う。

(物質収支区域の設定)

第4条 本学部における物質収支区域については、本学部の施設全体をもって設定し、計量管理については、この物質収支区域を基礎として行う。

2 本学部の物質収支区域の符号は、I Y-Rとする。

(記 録)

第5条 計量管理責任者は、別紙様式の国際規制物資受払簿に次の各号に掲げる事項について次条から第8条までの規定に基づき記録するものとする。

(1) 供給当事国

(2) 国際規制物資の種類及び重量

(3) 在庫変動の日付

(4) 在庫変動の原因

(5) 受入れ、払出し又は廃棄を行った事業所名

2 計量管理責任者は、受払簿を10年間保存するものとする。

(受入れ、払出し及び廃棄に関する手続)

第6条 計量管理責任者は、国際規制物資の受入れ、払出し及び廃棄に立会い、当該受入れ、払出し又は廃棄の数量をその都度記録するものとする。

(消耗、希釈等に関する手続)

第7条 計量管理責任者は、国際規制物資が消耗、希釈等により減少した場合には、当該数量を毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間について確認し、記録するものとする。

(事故損失に対する手続)

第8条 計量管理責任者は、事故により国際規制物資の損失が生じたとき又は生じたとみなされたときは、その都度数量を確認し、記録するものとする。

(報 告)

第9条 計量管理責任者は、法律第67条及び国際規制物資の使用に関する規則第7条第17項の規定に基づき、毎年1月1日から6月30日までの期間及び7月1日から12月31日までの期間に係る報告書を作成し、当該期間経過後1月以内に学長を経由して科学技術庁長官に提出しなければならない。

附 則

この規則は、昭和56年7月17日から施行する。

別紙様式

国際規制物資受払簿

富山大学

国際規制物資の種類				供給当時国								
事業所		理学部		使用場所								
在庫変動の原因及びその数量 在庫変動の日付 (年月日)	増			減						残高	備考	
	受入	その他	計	払出	消耗	希釈	廃棄	事故損失	その他			計

▶富山大学理学部国際規制物資計量管理規則の制定理由

理学部において国際規制物資である劣化ウランを研究用として使用するに当たり、これの適正な計量及び管理を行うため。

富山大学自然観察実習センター規則の制定

富山大学自然観察実習センター規則を次のとおり制定する。

昭和56年7月17日

富山大学長 柳田 友道

富山大学自然観察実習センター規則

(設置)

第1条 富山大学（以下「本学」という。）に富山大学自然観察実習センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本学の共同利用施設として野外教育（自然観察・栽培等）の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。

(組織)

第3条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

(1) センター長

(2) その他必要な職員

2 センター長は、本学の教授のうちから第5条に定める運営委員会の推薦に基づき、学長が命ずる。

3 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(職 務)

第4条 センター長は、センターの業務を総括する。

2 職員は、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

第5条 センターの運営に関する基本的な事項を審議するため、富山大学自然観察実習センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の審議事項)

第6条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) センターの管理運営に関する事項

(2) センター長の推薦に関する事

(3) その他センターに関する重要事項

(委員会の組織)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 教育学部の教官 4名

(3) 理学部及び教養部の教官 各2名

(4) 事務局長

(5) 教育学部事務長

2 前項第2号及び第3号の委員は、教授、助教授若しくは講師のうちから学部長又は教養部長の推薦に基づき学長が命ずる。

3 前項の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第8条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

(庶 務)

第9条 センター及び委員会の庶務は、当分の間、教育学部事務部において処理する。

(雑 則)

第10条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規則は、昭和56年7月17日から施行する。

▶富山大学自然観察実習センター規則の制定理由

本学の野外教育の実習利用及び教育研究に貢献する共同利用施設としての自然観察実習センターが設置されることに伴い、同センターに係る所要事項を規定するため。

富山大学認定講習委員会規則の廃止

富山大学認定講習委員会規則を廃止する規則を次のとおり制定する。

昭和56年7月17日

富山大学長 柳田 友道

富山大学認定講習委員会規則を廃止する規則

富山大学認定講習委員会規則（昭和25年 5 月23日制定）は廃止する。

附 則

この規則は、昭和56年 7 月17日から施行する。

▶富山大学認定講習委員会規則の廃止理由

教育職員免許法の規定に基づく認定講習を本学の規則として存続する必要がなくなったため。

諸 会 議**昭和56年度第 3 回学寮補導委員会（7 月 7 日）****（審議事項）**

(1)学寮の諸問題について

昭和56年度第 6 回補導協議会（7 月 9 日）**（審議事項）**

(1)当面する諸問題について

昭和56年度第 4 回評議会（7 月17日）**（報告事項）**

- (1)国大協の要望書の処理及び提出について
- (2)第28回国立大学図書館協議会総会について
- (3)学生の動向について

（審議事項）

- (1)富山大学認定講習委員会規則の廃止について
- (2)富山大学自然観察実習センター規則の制定について
- (3)富山大学人文学部教授会規則の一部改正等について（継続審議事項）
- (4)富山大学教養部教授会規則の一部改正について（継続審議事項）

昭和56年度第 3 回入学試験管理委員会（7 月20日）**（審議事項）**

(1)昭和57年度入学者選抜試験における補欠合格者の取扱いについて（継続審議）

昭和56年度第 2 回入学者選抜方法研究委員会（7 月20日）**（審議事項）**

(1)昭和60年度以降の共通第 1 次学力試験の出題教科・科目等についてのアンケート調査について

附属図書館商議会（7 月21日）**（報告事項）**

- (1)工学部分館長の交替について
 (2)第28回国立大学図書館協議会総会について
 (3)第2回附属図書館電算化委員会について
 (4)昭和56年度附属図書館運営費配分について

(審議事項)

- (1)昭和56年度学生用図書購入費について
 (2)昭和56年度参考図書購入費について
 (3)昭和56年度基本参考図書購入費について
 (4)短大からの申し入れについて(継続)

学 事

昭和56年度 科学研究費補助金(海外学術調査—調査総括)交付内定者

研究代表者	研 究 課 題	配分予定額 <small>千円</small>
人文学部教授 和崎洋一	スワヒリ語圏における多言語使用と「スワヒリ化」に関する比較調査	1,200千円

学 術 刊 行 物

富大経済論集(第27巻1号 1981年7月)

- | | |
|-----------------------------|------|
| ○利潤参加と財産分配政策 | 小原久治 |
| ○近代天皇制国家論についての覚書(3) | 小松和生 |
| ○会計実務基準書第16号の利益概念の検討 | 火原克二 |
| ○子会社による親会社株式の取得 | 泉田栄一 |
| ○〈労働力〉商品の特殊性について—売買形式と階級関係— | 小倉利丸 |
| ○意思決定モデル接近法と売却時価主義会計 | 榊原英夫 |

昭和57年度 富山大学入学者選抜に関する要項

1. 学部・学科等の内容及び入学定員

学 部	学 科 ・ 課 程	入学定員	専 攻 , 講 座 又 は 学 科 目
人文学部	人 文 学 科	90	履 修 コ ー ス 哲学, 日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 人文地理学, 文化人類学, 言語学, 比較文化 国語・国文学, 朝鮮語・朝鮮文学, 中国語・中国文学, 英語・英米文学, ドイツ語・ドイツ文学, ロシア語・ロシア文学, 比較文学
	語 学 文 学 科	80	

教育学部	小学校教員養成課程	140	専攻科 国語、社会、数学、理科、音楽、図画工作、体育、家庭、教育学、教育心理学 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、技術、英語 特殊教育 幼稚園教育
	中学校教員養成課程	50	
	養護学校教員養成課程	20	
	幼稚園教員養成課程	30	
経済学部	経済学科	120	経済原論第1、経済原論第2、経済史、経済政策、金融論、財政学、統計学、経済地理学、社会学、経営学、流通論、財務会計、管理会計、経営工学、経営環境論、国際経営論、人事管理論、経営実務論、基礎法、財産法、企業関係法、倒産関係法、社会法、(国際取引法)
	経営学科	120	
	経営法学科	60	
理学部	数学科	40	代数学及び幾何学、解析学、数理統計学、応用解析学及び電気計算機論 固体物理学、量子物理学、結晶物理学、電波物理学、レーザー物理学 物理化学、構造化学、分析化学、有機化学、天然物化学 形態学、生理学、細胞生物学、環境生物学 地殻構造学、地殻進化学、陸水学、雪氷学
	物理学科	40	
	化学科	40	
	生物学科	30	
	地球科学科	30	
工学部	電気工学科	50	電気理論、電気機器学、電力工学、通信工学、制御工学 有機工業化学、有機合成化学、無機工業化学、応用物理化学、環境化学 金属材料学、金属加工学、鉄冶金学、非鉄冶金学 材料力学、機械力学、流体工学、熱工学、動力熱工学 切削加工、工業計測、塑性加工、制御機器 反応工学、拡散単位操作、機械的単位操作、輸送現象 基礎電子工学、応用電子工学、電子素子工学、電子回路工学 応用物理学、応用数学、情報処理
	工業化学科	45	
	金属工学科	40	
	機械工学科	50	
	生産機械工学科	40	
	化学工学科	40	
	電子工学科	40	
	共通講座	—	
合計	1,195		

(注) ()内は、昭和57年度に開設予定の学科目である。

2. 入学者選抜方法等並びに第2次の学力検査実施教科・科目

別表I・IIのとおり

3. 学生募集要項(細目)の発表

募集人員、出願期日、第2次の学力検査等の実施期日、試験場等の細目を記載した学生募集要項は、12月中旬頃に発表の予定である。

4. 共通第1次学力試験及び第2次の学力検査の配点

学 部	共通第1次学力試験	第2次の学力検査	合 計
人 文 学 部	500点満点に換算する。 (各教科100点)	400点	900点
教 育 学 部 経 済 学 部 理 学 部 工 学 部	1,000点	400点	1,400点

- 備考 1. 第2次の学力検査の各科目ごとの配点は、それぞれ200点である。ただし、国語については、現代国語及び古典Ⅰ乙併せて200点、実技については、400点である。
2. 第2次の学力検査の受験科目については、別表Ⅱを参照。



別表I 昭和57年度富山大学入学者選抜方法等

選抜方法等	第2次の学力検査等				推薦				入学				第2次募集				備考
	実技検査等	面接を 行う	小論文 を課す	その他	推薦入学者 数(又は比率)	入学定員の一部について、出身中学校等の推薦に基づき、学力検査を免除し、調査書を中心に資料として判定する	実技検査等	面接を 行う	小論文 を課す	その他	入学定員の一部について、出身中学校等の推薦に基づき、学力検査を免除し、これに第2次募集を行う	実技検査等	面接を 行う	小論文 を課す	その他		
人文学部 教育課程の専攻(美術・保健体育専攻を除く)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1. 調査書に○ 표시を希望する。 (入学者選抜方法の研究資料として利用するため) 2. 教育学部中学校教員養成課程の音楽、美術及び保健体育専攻志願者で、当該専攻以外の課程又は専攻を第2志望とする場合は、実技検査のほか、学力検査を課する。 3. 教育学部中学校教員養成課程の音楽、美術及び保健体育専攻とする場合は、学力検査を課する。	
工学部 工学	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

別表II 昭和57年度富山大学入学者選抜第2次の学力検査実施教科・科目

出題教科・科目名	人文学部		教育学部		理学部		工学部		備考
	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	出題科目	受験科目数	
現代国語	◎	2	◎	2	◎	1	◎	1	1. 国語の現代国語と古典I乙は同一時間内に解答させる。 2. ※1 3. 教育学部志願者で、受験科目の異なる課程又は専攻を第2志望とする場合は、第1志望の受験科目のほか、第2志望の受験科目を受験しなければならない。 ただし、数学及び理科専攻相互間並びに音楽、美術及び保健体育専攻相互間の第2志望はできない。 4. 工学部志願者について ① 工学化学科及び金属工学科を第1志望とする者のうち「化学II」で受験する者には、両学科間での第2志望を認める。 ② 「物理II」で受験する者には、全学科にわたって第2志望を認める。
数学I	◎	2	◎	2	◎	1	◎	1	
数学II	◎	2	◎	2	◎	1	◎	1	
物理I					◎	1			
物理II					◎	1			
化学I					◎	1			
化学II					◎	1			
生物I					◎	1			
生物II					◎	1			
地球科学					◎	1			
英語	○	1							
外国語	○	1							
音楽									
美術									
体育									
合計	4	3	3	3	2	2	2	2	

備考 ◎は必ず受験しなければならない科目を、○は選択科目を示す。

人事異動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	56. 7. 1	高 瀬 均		助手（工学部）	富山大学長
昇 任	56. 7. 1	大 崎 秀 雄	文部事務官(庶務部庶務課)	庶務部庶務課 学 事 課 係 法規 主任	富山大学長
併 任	56. 7. 1	浅 井 享	教授（人文学部）	保健管理センター所長 (56. 7. 1～58. 6. 30)	文 部 大 臣
	56. 7. 13	宮 尾 嘉 寿	〃（工学部）	附属図書館工学部分館長 (58. 7. 12まで)	〃

学 内 諸 報

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	官 職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	理学部	教授	斎藤 好民	連合王国, カナダ	極低温における金属物性の実験的研究のため	56. 7. 27
						56. 8. 26
海外研修旅行	人文学部	〃	木下 良	中華人民共和国	西日本人文地理学者訪中団の一員として、中国学会との学術交流及び現地見学調査のため	56. 7. 16 56. 7. 31
	〃	講師	草薙 太郎	連合王国, フランス, ドイツ連邦共和国	世界シェイクスピア会議出席と大陸の文化遺跡調査のため	56. 7. 30 56. 8. 13
	教育学部	教授	田中 久雄	フィリピン, 台湾	第24回健康・体育・レクリエーション国際会議参加と台湾の体育事情視察のため	56. 7. 20 56. 7. 27
	〃	助教授	中川 孝	〃	〃	〃 〃
	〃	〃	山下 三郎	〃	〃	〃
	〃	〃	山地 啓司	〃	〃	〃
	〃	〃	助手	丸山 茂徳	アメリカ合衆国, カナダ	低温低圧下での変成反応についての実験とバンクーバー島の地質調査のため

	''	附 属 中学校 教 諭	大澤 保	アメリカ合衆国, カナダ, メキシコ	英語教師としての資質を高め, アメリカの教育状況を知り, 教育実習や家庭滞在を通して 日米文化交流の一助となる	56. 7. 22 } 56. 9. 23
	経済学部	助教授	武井 勲	アメリカ合衆国	ウィリアムズ教授とのリスク ・マネジメント及び保険に関 する日米比較研究のため	56. 7. 28 } 56. 8. 31
	教養部	教 授	小島 覚	カナダ	カナダ, アルバータ州の生態 区分の研究のため	56. 7. 11 } 56. 9. 3

富山大学公開講座

昭和56年度富山大学保健管理センター公開講座

講座の名称 ころの科学
 開設期間 昭和56年8月28日～10月23日（10日間 18：00から20：00まで ただし(土)は13：30から15：30
 まで)
 対 象 一般市民（約30名）
 講座内容

月 日	曜	題 目	講 師 名
8月28日	金	能と狂女	中 村 剛
9月 4日	金	気合と力	有 沢 一 男
9月11日	金	集団ヒステリー	中 村 剛
9月18日	金	対人恐怖	中 村 剛
9月19日	土	吾が内なる狂気	石 川 高 嶺
9月25日	金	現代学生の悩み	高 尾 テルノ
10月 2日	金	司法精神鑑定	中 村 剛
10月 9日	金	対人関係と感受性	中 川 孝
10月16日	金	禅と医学	中 村 剛
10月23日	金	未開民族のノイローゼ	中 村 剛

会 場 富山大学保健管理センター，レク・セラピー室

昭和56年度富山大学人文学部公開講座

講座の名称 世界・文化と人間
 開設期間 昭和56年9月21日～10月3日（10日間 18：00から20：00まで ただし(土)は14：00から16：00
 まで)
 対 象 一般市民（約80名）
 講座内容

月 日	曜	題 目	講 師 名
9月21日	月	ギリシア抒情詩の世界	山 村 敬
9月22日	火	現代における人間の問題	木 下 喬
9月24日	木	テンボ族の村落生落 —アフリカ学術調査から—	赤 阪 賢
9月25日	金	サバンナ—スワヒリの世界—	和 崎 洋 一
9月28日	月	イギリス社会の中の文化の役割 —特に文学からの観点—	草 薙 太 郎
9月29日	火	日本文学の青, ドイツ文学の青	吉 田 清
9月30日	水	近現代史上のフランスと日本	岡 本 明
10月1日	木	ひととことば	浅 井 亨
10月2日	金	ヨーロッパおよびアフリカの民族と言語	都 竹 通年雄
10月3日	土	東西思想の特質について	中 本 昌 年

会 場 富山大学人文学部

昭和56年度富山大学教養部公開講座

講座の名称 現代を問う

開設期間 昭和56年10月5日～11月18日(20日間 18:00から20:00まで)

対 象 一般市民(約100名)

講座内容

月 日	曜	題 目	講 師 名
10月5日	月	人間であること	杉 本 新 平
10月7日	水	健康と生活	稲 垣 保 彦
10月10日 10月12日	金 月	余剰と欠乏と —現代型犯罪の一断面—	駒 城 鎮 一
10月14日	水	夭折の象徴詩人 三富朽葉	勝 野 良 一
10月16日	金	経済学における富の定義	桂 木 健 次
10月19日	月	統計からみた戦後の日本経済	世 利 幹 雄
10月21日	水	転換期の現代政治	田 中 節 男
10月23日	金	近代化とその反省	梅 原 隆 章
10月26日 10月28日	月 水	日中比較史からみた現代の意味	中 村 哲 夫
10月30日	金	カロッサの現代的意義	瀧 澤 弘
11月2日	月	日英語比較からみた日欧人の意識構造	三 原 健 一
11月4日	水	自然保護概論	小 島 覚
11月6日	金	高移動化社会の論理	二 神 弘
11月9日 11月11日	月 水	生活と災害	藤 井 昭 二

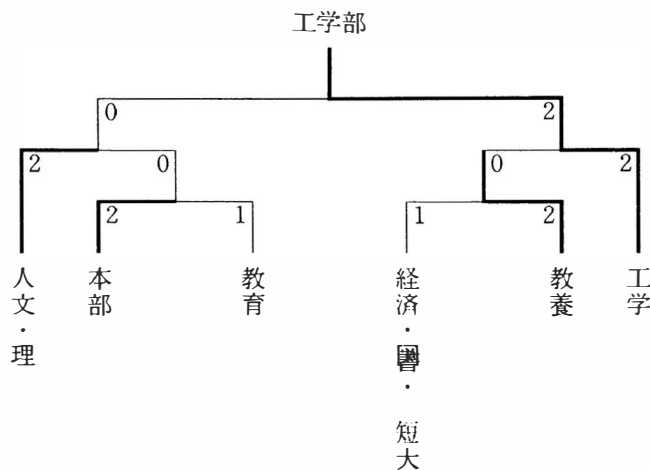
11月13日 11月16日	金 月	動物の行動	鈴木 邦 雄
11月18日	水	パネルディスカッション	全 員

会 場 富山大学教養部

学内レクリエーション

バレーボール大会

実施月日 7月18日(土)
場 所 富山大学第一体育館
参加人員 約70名
成 績 優勝 工学部チーム
次 勝 人文学部・理学部チーム



職 員 消 息

《新任者》

工 学 部

助 手 高瀬 均

《住所変更》

主 計 課

文部事務官 高邑 英市

教育学部

助 教 授 加瀬正二郎

教 養 部

庶 務 主 任 本吉 友治

主 要 行 事

本 部

- 7月
- 1～3日 昭和56年度国立学校労務専掌職員協議会
(於富士研修所)
- 2日 事務改善第一部会
- 3日 第2回部局長懇談会
昭和56年度大学入学者選抜・教務関係事項
連絡協議会(於大阪大学)
- 4日 大学と高校との懇談会(於名古屋大学)
- 7日 会計係長会議
入学試験管理委員会専門委員会
第3回学寮補導委員会
- 9日 第6回補導協議会
- 12日 第33回北陸四大学学生総合体育大会(於富
山大学)
- 14日 人事関係事項の説明聴取(於文部省)
- 15日 国立大学入学者選抜に関する第2回地区連
絡協議会(於名古屋大学)
- 16日 富山大学物品高価購入防止対策協議会
- 17日 第4回評議会
- 18日 学内バレーボール大会
- 20日 第3回入学試験管理委員会
第2回入学者選抜方法研究委員会
- 20～21日 昭和57年度概算要求の説明(於文部省)
昭和57年度国立学校施設整備費概算要求の
説明(於文部省)
- 21日 昭和57年度国立学校特別会計概算要求(厚
生補導関係)の説明(於文部省)
- 22日 昭和57年度大学入学者選抜共通第1次学力
試験実施担当者会議(於東京医科歯科大学)
- 24日 事務改善第二部会
- 27～28日 国立大学等事務電算化講習会(於福井大学)
- 27日 国立大学及び国立大学共同利用機関に関す
る行政監察(8月7日まで)
- 28日 計算機センター講演会
上越教育大学 小金井正己教授

「教育工学におけるコンピュータ利用」

- 30日 第3回部局長懇談会
全国大学保健管理協会東海北陸地方部会昭
和56年度総会(於浜松医科大学)
- 30～31日 第19回全国大学保健管理研究集会東海北陸
地方研究集会(於浜松医科大学)

文 理 学 部

7月14日 授業終了

人 文 学 部

- 7月1日 学部職業補導委員会
- 8日 第8回教授会
- 9日 秋期学部長会議実施打合せ会
- 10日 昭和56年度管理経費負担打合せ会
- 13日 秋期学部長会議実施打合せ会
- 14日 授業終了
- 15日 学部将来計画委員会
- 16日 拡大教務委員会
入試検討委員会
- 17日 次期学部補導委員会委員の打合せ会
- 22日 東アジア研究センター準備会

教 育 学 部

- 7月2日 日本教育大学協会事務局長会(於東京学芸
大学)
- 8日 人事教授会
- 10日 日本教育大学協会附属学校委員会(於東京
学芸大学)
- 11日 前学期授業終了
- 13日 特別教職課程委員会
- 13～14日 日本教育大学協会北陸地区第二部会音楽部
門研究協議会(於信州大学)

- 14日 入試検討委員会
 15日 補導委員会
 予算委員会
 合宿研修委員会
 16～22日 期末試験
 17日 附属幼稚園第1学期終業式
 21日 附属養護学校第1学期終業式
 22日 教務委員会
 教授会
 人事教授会
 昭和56年度日本教育大学協会第二部会技術・職業・職業指導部会総会（於東京学芸大学）
 附属小学校第1学期終業式
 附属中学校第1学期終業式
 26日 昭和56年度日本教育大学協会第二部会幼児教育部門会総会（於広島県宮島町）

経済学部

- 7月1日 日本海経済研究所運営委員会
 8日 //
 学部教務委員会
 日本海経済研究所所員会議
 教授会
 10日 コンピュータ管理運営委員会
 13日 授業終了
 財務委員会
 15日 人事教授会
 教授会
 16日 拡大教務委員会

理学部

- 7月3日 立山研究室運営委員会
 10日 昭和56年度管理経費負担打合せ会
 14日 予算配分打合せ会
 授業終了
 15日 教務委員会
 18日 予算配分打合せ会
 27日 教授会
 理学研究科委員会
 人事教授会
 28日 行政監察（～8月7日まで）

- 31日 次期学部補導委員会委員の打合せ会

工学部

- 7月3日 学部教務委員会
 8日 専任教授会
 工学研究科委員会
 15日 紀要委員会
 20日 係長連絡会
 21日 授業終了
 22日 学科主任会議
 29日 教授会

教養部

- 7月6日 講演会 演題「絶対零度（-273.16℃）への道」
 講師 長谷田泰一郎（大阪大学基礎工学部教授）
 8日 紀要委員会
 予算委員会
 11日 金沢大学教養部との交歓野球（於金沢大学）
 15日 教官定員配置検討委員会
 教務委員会
 教授会
 教授のみの教授会

附属図書館

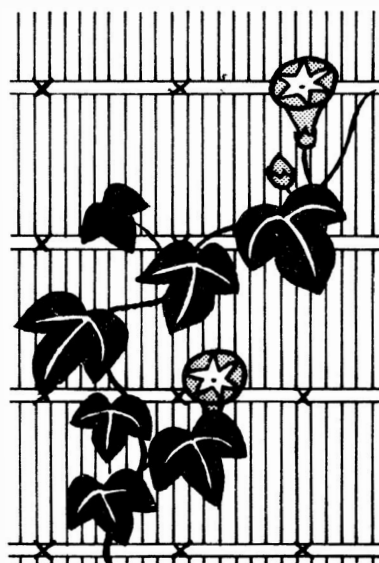
- 7月1日 図書館業務電算化研究会
 4日 附属図書館電算化委員会
 9～10日 図書館実務講習会（於富山県立図書館）
 15日 係長事務打合せ会
 21日 附属図書館商議会
 29日 図書館業務電算化研究会

トリチウム科学センター

- 7月6日 技術委員会
 21～22日 トリチウム班会議及び研究会（於理学部）
 28日 富山行政監察局による行政監察（8月7日まで）

経営短期大学部

- 7月1日 第3回奨学生選考委員会
- 3日 第5回教授会
- 8日 第4回奨学生選考委員会
- 9日 教官人事選考委員会
- 13日 財務委員会
- 16日 第6回教授会
教官人事選考委員会
- 18日 授業終了



編集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 中央印刷株式会社
富山市下奥井1-4-5
電話(32)6572(代)